

# 老健事業3年間の 成果からの提言

認知症介護研究・研修東京センター  
センター長 山口晴保



3月28日に予定されたフォーラムでは、日本認知症グループホーム協会が厚生労働省からの受託事業として行った、3年間の老健事業の調査結果をまとめて報告する予定でした。そこで、3年間の研究事業の成果をもとに、「認知症施策、グループホームが直面する課題」と「認知症グループホームに期待される共生社会づくりの役割」という本原稿にいただいたお題に応えようと思います。

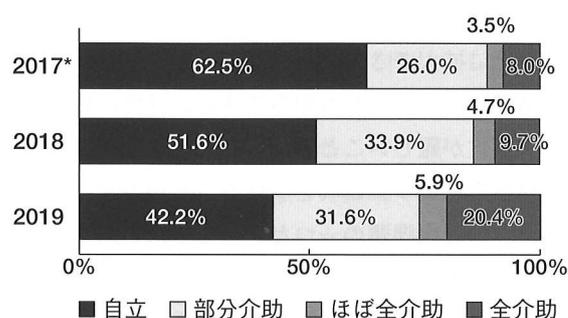
## グループホームケアの効果を世に示す課題

この課題に応えるべく、2017年度老健事業の調査で、既存入居群484人と新規入居群71人を対比して、グループホームケアで、新規入居から3カ月でBPSDが安定することとQOLが向上することを示しました。新たに発生したBPSDが、1カ月で低減することは、2018+2019年度調査でも示しました。BPSDが強い方も、グループホーム入居後には落ち着くことを、数値データで世に示しました。

## 3年間でADLが徐々に低下

調査を3年間継続することで、ADLについて、339人の経時データを得ることができました。ADLをバーセル・インデックス（100点満点）で数値化した結果、平均点が2017年度（2018年に1年前を振り返ったので信頼性は低い）73.4点、2018年度67.6点、2019年59.1点と、徐々にですが確実に低下しました。歩行の状態を図示すると全介助が2017年度は8%、2019年度は9.7%、2019年度は20.4%と増加する一方で、自立は2017年度の62.5%から、2018年度51.6%、2019年度42.2%と、年間約10%ずつ低下しました（図1）。ADLが低下し続けることを歳のせいとしてよいのか、少し考えてみましょう。

図1 BI歩行の経年変化



2018年から2019年の1年間で、歩行の項目の点数を見ると、48.4%が維持、25.8%が悪化の一方で、10.8%が改善でした。全体では悪化していくのですが、改善するケースもあります。よって、少しでも改善するケースを増やすことで、ADLの維持を図る余地があるのではないかと考えます。今後解析しますが、おそらく地域との交流が高い人では、ADL低下が少ないという結果が出ると期待しています。グループホームの今後の課題として、「ADLの維持に力を入れよう」と提案させていただきます。

## 抗精神病薬を2割の入居者が内服

2019年度の調査では、339人中で70人、20.6%の方が抗精神病薬を内服していました。BPSDの指標であるNPI-NHの得点との関係を見ると、BPSDが「ない～落ち着いている」と考えられるNPI-NHが10点以下でも31人が内服していました。内服しているからBPSDが落ち着いているのかもしれませんが、落ち着いているなら抗精神病薬は徐々に減量すべきです。ADLの低下や転倒リスク・死亡リスクの上昇など、副作用があるからです。

今回の339例でADLの低下と抗精神病薬の有無を

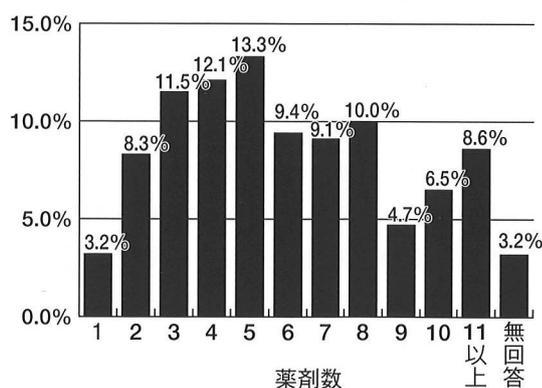
検討すると、「抗精神病薬内服群のほうがADLの低下が大きい」という結果が見られそうです（予報段階です）。

認知症グループホームでの抗精神病薬服用を減らすことは今後の課題です。ちなみに介護老人保健施設（老健）で2019年度に行った老健事業の調査では890人（大部分が認知症）の中で抗精神病薬内服は8.7%でした。目標にしたい数字ですね。

### ポリファーマシーの現状

薬剤の内服数も調査しました。339例の平均内服薬剤数は6剤（中央値が5.5剤）でした（図2）。この結果は、昨年同様です。今回の対象者の平均年齢は88歳です。将来の合併症を防ぐための予防薬は、超高齢者には基本的には不要と考えられます。超高齢者は肝機能や腎機能が低下しています。このため、多剤内服で副作用が出やすくなります。5～6剤以上内服しているだけで、転倒や認知機能低下のリスクが高まること示されています。薬剤の減量について、頻回に見直すよう、主治医と相談してください。

図2 薬剤の内服数



### 地域貢献・交流尺度

2018年度の事業で開発した施設の地域貢献尺度と入居者の地域交流尺度を用いて、貢献・交流状況を2019年度に調査しました。地域貢献は良好ですが、地域交流は少ないという前年同様の結果でした。図3に地域に外出しての交流4項目の状況を示すと、どの項目も月にゼロ回が大多数です。施設内での交流状況を図4に示すと、ボランティアとの交流は6割の施設で行われていました。

2020年はしばらくコロナ騒動で地域交流は難しい

ですが、騒動が落ち着いたら、入居者が買い物など外に出る機会を増やすことや、できれば、清掃作業や子どもの見守りなど地域で役割を持つことへの積極的な参加、また地域の人や子どもたちが事業所内にきての交流を増やすことを進めていただきたいと思います。

図3 地域交流 施設外

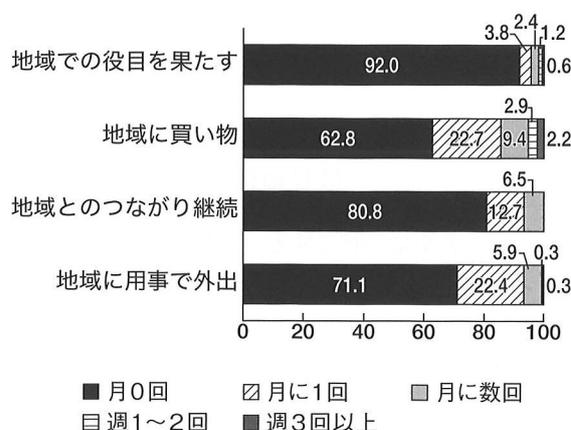
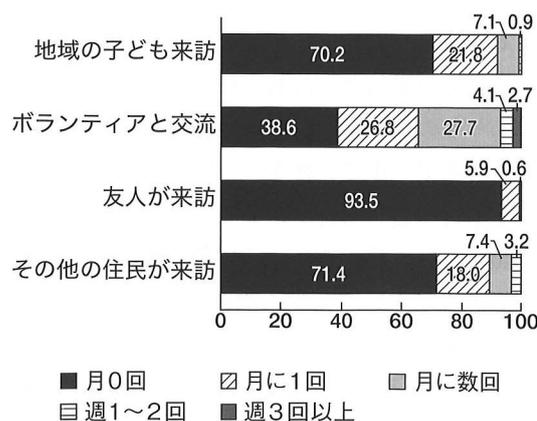


図4 地域交流 施設内



☆

老健事業は3年間で一段落です。1年目には定量的評価に慣れない介護スタッフにもご協力をいただき、グループホームケアの効果を世に示すことができました。さらに継続調査により、BPSDやQOLは安定している一方で、ADLは確実に低下していくことを示しました。これらの成果を踏まえて、グループホームの素晴らしさを世に伝えていきましょう。

3年間の研究事業にご協力いただいた、たくさんの事業所および、そのスタッフの方々に深謝します。